

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500188
法人名	株式会社お茶屋の里
事業所名	グループホームはなれ茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-21
自己評価作成日	平成26年9月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族に対して安心して頂く為に、毎月お渡しする「利用者の現状」には、各担当者が身体面、精神面一ヶ月の出来事などを細かく落とし込んだり、「はなれ茶屋便り」においては、個人個人のいろいろな場面での写真をお載せして一ヶ月の様子を分かりやすくお知らせしている。体調に変化がある時は早めにご連絡し、受診などに向けて相談をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、筋力トレーニングに力を入れており、ユニット間の仕切りを取り外して、毎朝10～15分間、歌を歌いながら歩く方もある。ユニット間で利用者同士顔見知りになり、「あなた、新しいわね」と入居したばかりの利用者に話しかける場面もあるようだ。入院後、車椅子を使用して戻って来られた利用者も歩行練習やりハビリに取り組むことで、現在自力で歩けるようになってきているようなケースもある。日常的には、遊歩道を散歩したり、おやつ作りの材料を買いに出かけられるよう支援されている。事業所には車椅子専用の自動車もあり、ユニット全員でも出かけている。「ケーキが食べたい」「フルーツが大好き」等、利用者の会話や新聞・ニュースの話題をきっかけに、出かけることも多い。「イチゴ狩りに行くために足を鍛えないかん」と、歩行練習に励む方もあるようだ。失禁が多くみられる利用者が入居されたことがきっかけで、毎日尿漏れ防止トレーニングを始めておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなれ茶屋

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 神野 晶子

評価完了日 平成 26年 9月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホームの理念を掲示し、毎朝の朝礼時にお茶屋の里の理念と信条、はなれ茶屋の理念を全員で唱和し実践に繋げている。	
			(外部評価) 「笑顔、誠実、ふれあい」を理念とし、玄関やユニット毎にフロアに掲示しておられる。又、年度毎に目標を作っており、今年度は、「ご利用者様、ご家族様へおもてなしする気持ちで接しよう」と決め、職員は利用者やご家族に、「さりげなく、さわやかに、しつこくしない」ことを心がけながら、笑顔で接することに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) いつも散歩させて頂いている遊歩道の草取りをするなどして地域の清掃活動に参加したり、地域のお寺や神社の祭り、運動会、公民館での行事にも参加させて頂いている。また夕涼み会では地域のボランティアの方が多数お手伝いして下さいました。	
			(外部評価) 法人で開催する夕涼み会時は、事前に地域ボランティアの方達が盆踊りを教えてくれたり、当日は、数十名のボランティアの方が利用者を会場まで連れて行ってくださり、利用者は地域の方やご家族と一緒に盆踊りや模擬店を楽しまれた。近隣にあるお寺は、春祭り等の行事に招待してくれており、車いすを使用する利用者が参加しているのを見て、2年前、境内の段差をスロープに改修して下さり、参加しやすくなっている。近所の方とは散歩等を通じて、利用者や職員と顔見知りになっており、庭の花を分けてくれたり、事業所へ来られて一緒にボランティアの方の三味線演奏を楽しんだりされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生や高校生の職場体験を受け入れたり、ヘルパーの研修生を受け入れている。運営推進会議では地域の方に事例を挙げながら認知症の諸症状よっての対応の仕方、病院受診の様子、服薬調整の困難さなどをお聞きして頂いている。日々の業務に忙しく地域の様々な人々に向けての支援方法の発信までには至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者の介護度、行事内容や医療との連携、サービス目標の達成状況、日頃の支援の報告など、写真や便りを見て頂きながらサービスの実際を知って頂いたり、困難事例等も聞いて頂きながら参考になるご意見を頂いている。	
			(外部評価) 会議は、法人内の系列グループホームと合同で行っており、場所は各事業所で持ち回りになっている。事業所からは、ご家族、利用者各一名ずつ参加されており、行事や利用者の状況、困難事例の対応について報告したり、消防訓練時の様子を説明されている。地域の方からは、地域行事の予定を教えてもらい参加されている。会議に参加した利用者から、「皆の話す声が聞こえない」と意見があり、以後は大きな声で話すよう気を付けている。管理者は今後、近所の方にも参加を働きかけ、事業所の取り組みについて意見をお聞きしてみたいと話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護福祉課にホームの活動内容や現状を定期的に文書で伝えている。また、地域密着部会に出席し、市担当者からの情報を得るようにしている。また運営推進会議には必ず市町村担当者にも参加頂き、事故報告などの説明をさせて頂いたり、ボランティアの紹介などもして頂いている。	
			(外部評価) 地域密着型サービス事業所が集まる「地域密着部会」等の機会には、市の担当者から、介護保険の動向や新居浜市の状況、認知症サポーター養成の取り組み等についてお話があり、時には、困難事例等についてのアドバイスもある。介護相談員は2ヶ月に1回、二人で訪問があり、利用者とお話しされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者がお一人で自由に外出される事例が続いた事があり、会社の方針で入居者の安全を守る為に電動ドアになった。	
			(外部評価) 利用者が出て行かれて、危ない目に会ったことを機に、法人の指示で玄関、裏口ともに終日電動ドアによる施錠を行っている。換気等のため裏口を開ける時にはセンサーを作動させている。運営推進会議で施錠について話し合った際には、ご家族から「防犯のため施錠してほしい」と言う意見があり、地域包括支援センターの方は、「自分の家でも鍵をかけてるから仕方ない」と話されたようだ。管理者は「一時的な対応であり、利用者の状態によっては、今後、施錠しないこともあり得る」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉での虐待も含め、どういう事が虐待になるのかユニット会で話し合ったり研修にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などに参加し認知症の方の財産を守るためにそのような制度があることは皆理解出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を読み合わせながら、これはどういう事を言っているかなど具体的に説明している。また改定があった時は、追加で文書で説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時にお話したり、ホーム内での行事に参加頂いた後ホームで食事会を開催し、職員や他の家族との交流をして頂いている。遠方の家族には電話にて要望や意見などを確認している。意見箱も設置している。 (外部評価) 行事には10名以上のご家族の参加があり、利用者と一緒に料理を作ったり、カラオケを楽しむこともある。ご家族同士でお話するような場面もあり、「ここは外出をたくさんしてくれていいね」等の感想があるようだ。月1回、ご家族へ請求書と便りとともに、利用者の食事、排泄等、項目別に利用者の1ヶ月の様子を記した手紙を送付されている。職員の思いが伝わるように手書きで丁寧に作っており、ご家族からは、「細かく書いてくれてよくわかる」と感想があるようだ。又、利用者の「お薬シート」も同封し、薬変更の際には、ご家族に連絡し、その後の変化等も合わせて報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月月末に社長や施設長から運営について説明がありスタッフ全員参加している。また毎月リーダーが参加して運営報告をして現場からの意見も報告している。半期毎にスタッフの日頃お思いを聞く機会を設けたり、何かを決めたりする時に職員全体からアンケートを取り職員の提案を参考にしながら運営に反映させている。	
			(外部評価) 朝礼や月1回のユニット会時、管理者は職員に意見や質問はないか尋ね、意見等を聞き取っておられる。職員は、業務スケジュール等について提案しており、話し合って庭掃除の時間帯等の変更をされた。管理者は、職員の申し送り内容について、職員によって差があり、「利用者の様子やご家族の話等がうまく共有できていない」と感じており、今後は、職員にメモの活用を促したり、共有の重要性を話す等して指導に努力したいと話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の遅刻欠勤の状況を管理したり、個人面談にて各自の目標や達成状況を話し合ったり、勤労への自己評価を取り入れながら管理者も多方面から査定し給与や賞与に反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日頃の講習や資格取得に対する講習への参加を金銭面でもバックアップしてくれている。就業後にも地域での研修には積極的に参加している。また、所内でも接遇において講師をお願いし開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東予地区での職員交流会や同業者との相互研修に多くの職員が参加した。また、相互研修においては、他事業所の良かったと思えることを日頃の支援に反映させることが出来た。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が早くホームに馴染めるよう、コミュニケーションを密に取り、一日に何度も声かけをし、寂しさや不安への配慮を心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族の不安が軽減出来るよう、今までの困り事を聞いたり家族と職員と同行で心療内科や精神科を家族と一緒に受診し、今後の方向性について確認し合うようにしている。また、入居直後は安心頂ける様々電話で状況をお伝えしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス導入時は本人と家族からどういう困りごとがあって、これからどうなりたいか、ホームに対し今後への期待などもお伺いする中でニーズを抽出しケアプランに落としている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 庭掃除・植物の水やり・買い物や散歩などを職員と一緒にしている。洗濯物を一緒に畳んだり干したり、台所仕事やおやつ作りを一緒にしている。又外出支援では季節の花を楽しんだり、外食を共にしたりしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 気軽にご自宅に外出、外泊して頂いたり、花見、そうめん流し・夕涼み会・寿司パーティ・クリスマス会などに家族にも声かけし参加して頂き、利用者も一緒にホーム内で食事を伴にして頂いたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人と電話でお話をして頂いたり、会いたい人と面会や外出が出来るように支援して頂いている。また地域の運動会や文化祭に参加したり、盆踊りやバザーを開催し交流に努めている。 (外部評価) 親戚の方が毎月来られている方があり、職員は来訪者にはお茶を用意する等して、ゆっくりしてもらえよう気配りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニット全体で散歩したり、一緒にレクリエーションをしたりすることで仲間意識が生まれてきている。またお茶を飲みながら話好きな利用者が中心になり利用者同士で会話が楽しめるよう、職員が間に入りながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療が必要になり、入院される入居者においては、退居後初期の頃は電話や見舞いにも数回行っている。新しい利用者様、現在入居中の利用者様の支援や日頃の業務に手一杯の状態、なかなか継続して連絡を取り合う事は難しいのが実情です。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自立度の高い利用者においては、共同で生活すること自体にご不満もあられると思われ、なるべく個人のニーズに添っての好みのレク、外出などに取り組んでいる。思いの表出が困難な利用者においては、記録を書く時などはいつも近くに座り、目を合わせ話しかけるようにしている。入浴時などにもゆっくりとお話を聞かせて頂いている。 (外部評価) 「お昼は横になってテレビを見たい」等、利用者から聞き取った暮らし方の意向等は、生活記録に記しており、記録の中でも特に共有の必要性がある事柄は業務日誌にも記して、朝礼時に共有する仕組みを作っておられる。アセスメント表は、利用者個々の担当職員が作成し、他職員の気づきがあれば加えるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回アセスメントで得られなかった情報は、その後の家族との話の中だったり、日頃の利用者との会話の中で見つけて追加事項として修正している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書の中に落とし支援している。有する力については、ことわざかるたやゲーム、お茶を飲みながらの会話の中で発見させて頂いている。また職員側からお手伝いをお願いすることで持てる力を発揮して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>介護計画については各担当者が家族に連絡を取り、面会時に相談したり、コミュニケーションが良好な利用者においては日常の中でお聞きすることが多い。本人から聞き出す事が困難な利用者においては、日常の団欒の中でその人なりの思いを職員間でアセスメントする事が多い。モニタリングシートを毎日チェックしケアプランに添って支援出来るように確認している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の支援内容に沿った支援ができていますか毎日、個別のチェック表に○×を付けており、月1回のユニット会でまとめ、介護計画見直し前にモニタリングされている。「お友達を作りたい」「認知症を進ませたくない」等の利用者やご家族の希望も計画に採り入れており、他利用者とカルタをしたり、気の合う利用者とお茶店に行く機会を作り、支援しているケースがある。</p>	<p>管理者は、利用者の「より良い暮らし」の支援を目指しておられる。今後はさらに、利用者の暮らしの希望に沿った利用者主体の計画作成に向けて、利用者個々のアセスメントを十分に活かして計画作成に努めていかれてほしい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が普段と変わった様子を呈している時は、報告・連絡・相談を密にし、生活記録に落としたり特に変わった事があった時は赤ペンで業務日誌に落とし情報を共有出来るようにしている。プランに添って出来た事は青インクで個人記録に書き込んでいます。毎月ユニット会を開催し、ケアプランの確認や利用者の様子の報告をして情報を共有している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家族との一緒に出来る行事(寿司パーティ・誕生会・Xマス会など)を開催しており家族の思いを聞ける機会を多くし、日頃から本人、家族、職員の関係がスムーズに進むよう努力している。また、利用者のニーズに合わせて出来る限り外出支援をすることなどで、利用者にとって合った支援を心がけている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>地域の中学の合唱団に中学の卒業記念に合唱をして貰ったり、地域の方に盆踊りを教えて頂いたり、ボランティアの方に敬老会などには大正琴や南京玉簾、フラダンス、三味線などを披露して頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>隔週ごとに協力医に往診して頂いている。体調の悪い時は家族に同行もお願いしながら受診している。また、心療内科などは納得のいかれるかかりつけ医に受診して頂けるようにしている。また隔週毎に、訪問歯科などにも来て頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力歯科医は年2回、無料で口腔健診を行って来ており、必要があれば、ご家族と相談して治療できるよう支援されている。管理者は利用者の病気や薬の副作用等を医師や薬剤師に聞いたり、インターネットで調べる等して、職員に伝えて個々が医療的な知識も深められるようサポートされている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>現在看護職員は在籍していない。介護職員が利用者の体調が変わった時は管理者に報告し、家族と相談しながら、適切な受診が出来るよう心がけている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、ホーム側から介護添書を作成し入居時の情報を渡したり、退院時は看護サマリーを頂いて情報交換している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>現在看護師がホームに勤務しておらず、当ホームでは経管栄養になった場合は、ホームでの生活を継続するには困難である事の説明をしている。重度化しても口から食事が出来ている間は、ホームで支援する事等の説明をしている。要介護4→5になってくる時点で家族に特養の説明をし、必要な方には見学や申し込みなどもお勧めしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族から「ぎりぎりまで見てほしい」と希望があり、今夏から、ご家族と連絡を密にとりながら対応された事例がある。救急搬送時の話し合いを行い、経腸栄養剤摂取を援助したり、職員2名で入浴介助等して支援された。管理者は、深夜でも電話がつながるようにして、職員の不安が軽くなるようサポートされた。最期は病院で亡くなられたが、ご家族からは「楽しく過ごさせてくれた。みんなに感謝している」と言っていたようだ。この経験を機に、事業所では今年9月に「看取りへの考え方」を作成し、「看護師が在中しない事」「痰吸引が出来ない事」「ご家族の宿泊が必要な事」等を盛り込まれた。現在、事業所での看取りを希望している方は少ないようだ。ご家族の中には、「最後までここに居させたかった」と話す方もあり、職員は、「不安はあるものの看取りに組みたい」と話す方もある。</p>	<p>管理者は今後、機会を見て事業所での事例を挙げながら、「看取りへの考え方」を基にして説明したり、「最期をどうするか」聞きたいと話しておられた。重度化や看取り支援については、グループホームだからできる支援について、職員やご家族と話し合う機会を持ちながら、利用者の希望をチームケアで支援していかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置している。また数名の職員が再度消防署での研修を受講し復習した。急変時や事故発生時にはどうするか普段から話し合ったり、電話口に急変時のマニュアルを掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作っている。訓練については、夜間対応・日中の火災などの避難訓練を消防署や地域の人の立会いの下行った。地域での防災訓練にも参加している。また先日の台風通過時は、夜勤以外に一人宿直体制で待機してもらった。	
			(外部評価) 避難訓練は年2回、消防の立会いのもと行っておられる。消防署からは、「職員は玄関の施錠を開けるのを忘れていた」「自分で動けない利用者はシーツで引っ張る」等の指摘やアドバイスがあった。又、訓練時は近所の方も参加されており、避難場所での利用者の見守りや人数を数える等して下さった。近隣には、法人系列事業所が複数あるため、いざという時には、お互いに協力し合うことになっている。今年からは、事業所内に飲料水やレトルトご飯、缶詰、ラーメン等、備蓄についても取り組みを始めておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員には、一人一人に丁寧に優しい声かけと認知症利用者への尊厳を守る事の大切さを朝礼などで伝えたり、研修にも参加して尊厳を守る事の大切さを勉強して貰っている。	
			(外部評価) トイレや浴室では、ひざ掛けやタオルを使用して、利用者が恥ずかしい思いをしないように介助することに努めておられる。又、利用者がトイレを開け放して使用している場面には、職員がそっとドアを閉めるようにされている。職員の言葉遣いが気になった時には、管理者が「です・ますをきちんと付けるように」と指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員には午前、午後のお茶の時間の会話の中で、利用者の思いを聞いて貰っている。利用者の殆どの方が、家族に心配させるからは言えないような事でも、職員には遠慮なく言えているような気がしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書の中に落とし支援している。有する力については、ことわざかるたやゲーム、お茶を飲みながらの会話の中で発見させて頂いている。また職員側からお手伝いをお願いすることで持てる力を発揮して頂いている。またそれを毎日モニタリングしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物でお好きな服を買って着て頂いたり、明るい色の服を着て頂けるようアドバイスしたりしているが、朝替えて頂いても、結局途中で重ね着したり、昨日の洗濯物が帰ってきたら同じものを着直したりされることが多い。その人らしいと言えばその人らしいのかもしれない、それ以上こっちが良いあっちにしようと言う事は控えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事がスムーズに出来るよう口腔ケア体操をしている。食欲が出るように盛り付けに工夫したり、また毎回盛り付けや後片付けも手伝って頂いている。 (外部評価) 法人内の厨房から副菜が届き、事業所でご飯や汁物を用意されている。利用者のリクエストで巻きずしを作ったり、畑のトマト等の野菜を使って一品加えることも多いようだ。月1回、食事作りの日を設けており、利用者も職員と一緒に野菜を切ったり、果物を盛り付けたりされている。調査訪問時は、手作りの日で、利用者は芋たきの里芋の皮をむいておられた。男性利用者も芋を切る等されており、昼食事時、職員は、「〇〇さんが剥いてくれたお芋はおいしいです」とお礼を言っておられた。利用者は、「大勢の分炊くけん、おいしいねえ」と話しておられた。職員も利用者と同じものを食べながら利用者の感想を聞いており、法人内の食事検討委員会に上げるようになっている。肉が嫌いな方には、事業所で魚を用意することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1500ccを目標にしての水分摂取、好みの飲み物をいろいろ揃えて選んで頂けるようにしたり栄養士が作った一日1500clの献立を美味しく食べる事が出来るよう、利用者に合わせて形状を変えたりしている。ポカリゼリー、茶寒天などを作って食して頂いたり、夜間はトイレに起きられた時など、声かけで水分補給をして頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアなど毎回徹底している。月に二回訪問歯科診療の往診があり口腔ケアや治療をして頂いている。入れ歯も洗浄剤に毎晩漬けて清潔にしている。また痰がからまないよう、咳払いの練習をしたり、歯磨きやうがいの後に実際に出来る人には咳払いをして痰を出きるようにして頂いている。就寝前にはコンクールFでうがいをしたり、口腔ケアに利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の排尿パターンを把握することで、少し早めのトイレ誘導をしている。トイレの場所が判らない利用者には、さりげない声かけでトイレまで誘導するようしている。見守りと声かけ誘導で布パンツを使用している利用者が増えた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>紙パンツを使用していた利用者のご家族から、「夏は布パンツにしてほしい」と希望があり、職員は、早め早めのトイレ誘導を心掛けて支援されている。失禁が多くみられる利用者が入居されたことがきっかけで、毎日尿漏れ防止トレーニングを始めておられる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>牛乳、ヨーグルト、ヤクルト、バナナ、ミックスジュースなどを毎日工夫し提供している。散歩や歩行練習などで運動量を増やせるようしているが、なお便秘がちな利用者には医療と連携し服薬調整している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入りたいと言う時間に入浴支援したいが、レクリエーションや歩行練習など全体的な時間を考えると、利用者が入りたい時間に入浴する事は困難で、職員が3人以上になっている午後から夕方にかけての時間が多くなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、ユニットによって、2日に1回・3日に1回入浴を支援されている。一般家庭用の浴槽が設置されており、「1番に入るのは嫌」「男性の後に入るのは嫌」等、利用者の希望に沿うよう、入浴の順番を決めておられる。1対1の対応で支援されており、利用者は昔話等しながら入浴されるようだ。車椅子を使用する利用者には、職員2人で対応し、浴槽で温まれるように支援されている。入浴剤の使用やご自分用のシャンプーを用意して使用する方もある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中体操やゲーム、午前・午後の歩行練習で運動量を増やせるようにしている。その場での足ふみ運動や立ち上がり練習などケアプランに添って運動を取り入れている。昼夜逆転傾向だった利用者も改善されてきた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の薬の仕分けの時に、その都度用法や副作用を確認しながら仕分けするようにしている。体調に変化がある時は、職員間で報連相しながら医師に連絡し服薬の調整をしている。入居者に変化があった時は家族報告し医療機関へ受診出来る様支援したり職員間で話し合い、症状の緩和に務めている。また診療記録や業務日誌に記入することで情報の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 博学な利用者が多く、歴史かるたやことわざ遊び、しりとり、難読漢字読みなどのレクリエーションを楽しんだり、ゲームにお菓子などの景品をつけたりして競争心を煽りつつ楽しんで頂けるように工夫している。また今年は畑作りをして野菜の収穫の喜びを感じて頂いたり、収穫した野菜を調理して頂いたりした。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出においては秋は皇帝ダリア、コスモス畑、紅葉へのドライブ、冬は寒桜・梅園、春は市内の桜の名所巡りや蔷薇園や紫陽花ロードや菖蒲園、夏はひまわり畑など四季折々の外出を楽しんで頂いたり、地方祭に出かけたり、住民運動会、地域の餅つきなどに参加している。季節の良い時は毎日の行事として遊歩道を散歩している。 (外部評価) 日常的には、遊歩道を散歩したり、おやつ作りの材料を買いに出かけられるよう支援されている。事業所には車椅子専用の自動車もあり、ユニット全員でも出かけている。「ケーキが食べたい」「フルーツが大好き」等、利用者の会話や新聞・ニュースの話題をきっかけに、出かけることも多い。「イチゴ狩りに行くために足を鍛えないかん」と、歩行練習に励む方もあるようだ。管理者は、「外出、外泊は自由」とご家族に説明しており、ご家族と頻回に外食したりご自宅で泊まる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎週木曜日に売りに来るパン屋さんで自分の財布からパンを買ったり、希望があれば近くのスーパーに気軽に買い物に出かけたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 書く事が困難になってきている入居者も多いが、年賀状など自筆を添えて家族や知人に書いて頂いたり、利用者の中には遠方の子供さんと毎日朝晩電話している方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節毎のタペストリーで壁面を演出し、季節感を感じて貰えるようにしている。また、季節の花をホールや玄関に飾ったり、金魚を飼ったりして楽しんで頂けるようにしている。	
			(外部評価) 事業所は、日本庭園に和風の建物で、窓等からは松やもみじ・庭石等が見えて風情がある。共用空間には、カンナや彼岸花等を生け、壁にはお月見のタペストリーや利用者の写真を飾っておられた。近隣にある畑で野菜を育てており、利用者は収穫等をされている。事業所は、筋力トレーニングに力を入れており、ユニット間の仕切りを取り外して、毎朝10~15分間、歌を歌いながら歩く方もある。ユニット間で利用者同士顔見知りになり、「あなた、新しいわね」と入居したばかりの利用者に話しかける場面もあるようだ。入院後、車椅子を使用して戻って来られた利用者も、歩行練習やリハビリに取り組むことで、現在自力で歩けるようになってきているようなケースもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座って自由にテレビを見て頂いたり、気の合う利用者同士で居室でお話出来るようソファをセッティングしたり、ホールでお疲れの様子が見える利用者には居室で横になられるよう声かけをしたりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具、人形を持ってきて頂き、壁面もお気に入りの写真を貼ったり自由に使っている。	
			(外部評価) ご主人のお位牌を置いている利用者は、毎朝ご自分でお水を供えておられる。立ち上がりが不安定になった利用者の居室のソファは、立ち上がりやすいよう少し高めのソファに交換されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の居室には温かみのある表札を設置している。廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレは「便所」と分かりやすく表記したりしている。	